

## 100512yoka レポート提出に関して

ーレポート提出までのスケジュールー

5月12日：レポート提出要領の説明

5月19日：レポート作成上の注意。口頭での関心テーマについて受講生全員から一人1-2分で報告

5月26日：レジメ中間報告①Aグループ約10名(A4版1枚。一人当たりの持ち時間5分。以下同)

6月2日：レジメ中間①Bグループ(約10名)

6月9日：レジメ中間①Cグループ(約10名)

6月16日：レジメ中間②Aグループ(約10名) \*レジメは文章化したもの

6月23日：レジメ中間②Bグループ(約10名) \*レジメは文章化したもの

6月30日：レジメ中間②Cグループ(約10名) \*レジメは文章化したもの ★実質的にはこの日(6月30日)のレポート完成を目指す!

**☆7月7日：レポート提出日！ \*授業の開始時に。**

7月14日：レポート内容(No.1-No.10)をめぐる自由討議その1。司会者は受講生から。レポート作成者は最初に1分程度の補足説明。受講生は事前に熟読(以下同じ)

7月21日：レポート内容(No.11-No.20)をめぐる自由討議その2。

7月28日：レポート内容をめぐる自由討議その3。

8月4日：(おそらくこの日の同じコマ。場所もここで) 余暇政策論の記述試験

.....

### <7月7日提出のレポートの内容・体裁等について>

テーマは国内外を問わず、余暇領域に関するものであれば、自由に設定してよい。ワード文書(Word2007までであればOK)で(一太郎の場合2006までであればOK)。USBフラッシュメモリー等の電子媒体で7月7日のこの時間の最初に提出(印刷したものの提出は必要なし。USBメモリーは編集作業後その場で返却)。この日の授業は最初に編集作業に当て、残りの時間を7月14日、7月21日、7月28日の議論についての説明(順番や割り当て、司会の決定など)に当てる。

教員による研究室HP掲載作業の際、html文書(ホームページ掲載用の文書)に変換するので、最終的にはWord文書の「表示」→「Webレイアウト」画面にした上で、Word文書として保存した上で提出してほしい。

ファイル名は100707+名前。(例)100707nakamuray

文字の大きさは10.5に。字体はMS明朝。

最初にファイル名(ここで改行)

次の行に名前「テーマ」を書く。ここの字の大きさは太字 12 ポイントで。

(例)

100707nakamuray

## 中村祐司「学校芝生化学業を通じたスポーツ環境整備の課題」

文章の書き出しはテーマ名等の記載行から 1 行空ける。

★完成版では文章中、段落ごとに 1 行空けることとする。大項目（1. 2. 3. など）のみで小項目は付けない。どうしても付けたい場合は番号なしの小見出しのみとする。

★分量は 400 字相当× 8 枚から 12 枚の間（印刷レイアウトの画面で 40 字×40 行とすれば、2 ページから 3 ページ分）。図表は原則として掲載しない。どうしても掲載したい場合には自作のもので、最後に資料として掲載。

.....

<レポート作成の当たっての基本姿勢の再確認>→

中村祐司「大学の講義・レポート作成におけるインターネット情報利用の功罪」をよく読んでおくこと。

<http://gyosei.mine.utsunomiya-u.ac.jp/since2001koki/shoki03/shokikanseireport/030709nakamuray.htm>

自分の文章をつなげる。貼り付けはなし。最初から最後まで自分主導で書く。図表はなし。引用は最小限に。まとめた場合にもそのことが読み手に分かるように。その際には以下のように★情報源を個々の文章あるいは段落ごとに明らか（当該HPにおいて引用ないしはまとめた当該HP画面のアドレスと、カギ括弧で名称を記入）にする。アドレスは当該HP画面で右クリック→プロパティで表示される。アドレスを貼り付ける。

☆脚注機能を用いる。その場合は文末脚注（Word2007 の場合参考資料や文末脚注の挿入→参照→脚注）とし、脚注番号の形態は半角数字とする。

（例）講義においてプロジェクター等を使用するデメリットについては、「受講生の反応や表情さらにはその場の雰囲気といった微妙な教員と受講生の間に生じる『環境』に応じた講義展開を不可能なものにしている」という指摘がなされている<sup>i</sup>。

<sup>i</sup><http://gyosei.mine.utsunomiya-u.ac.jp/since2001koki/shoki03/shokikanseireport/030709nakamuray.htm>

中村祐司「大学の講義・レポート作成におけるインターネット情報利用の功罪」（2010年5月1日現在）。